

国際交流員ダニエルの

KANGA KOURYUU

カンガ交流



世界の年末年始の過ごし方

皆さんは、年末年始をどのように過ごしますか。大晦日に年越しそばを食べたり、元旦に初詣に行ったり、日本では新年を祝う風習や行事が多いですね。海外の国でもいろいろな過ごし方があります。

今回は私が特におもしろいと思った外国の4つの風習を紹介します。ぜひ楽しんで読んでください。

タマネギを飾るギリシャ

ギリシャでは新年の時期に、玄関のドアの上にタマネギを飾る風習があります。新年はギリシャ人にとって、復活や成長、健在などの意味を持っています。タマネギは土から掘り出しても葉や根が伸び続けるので、新年のシンボルの一つとして考えられています。また、一部の家族は元日の礼拝式に遅れないように、寝坊しがちな子どもたちの頭をタマネギで叩くこともあるそうです。



アイルランドはパンでおはらい

新しい年に向けて悪魔と不運をはらって、福を招くアイルランド。日本の節分では豆を投げて鬼を追い払いますが、アイルランドでは古くなったパンを家の壁に叩きつけます。基本的にそれはおはらいのための風習ですが、福を招いて新年に食パンが十分な量あるように願うという意味もあるそうです。

ベラルーシの雄鶏

ベラルーシの独身女性たちは、新年に誰が一番早く結婚できるかを占うゲームで勝負します。そのゲームは「雄鶏とコーン」というものです。女性たちは列に並んで、足元にコーンを載せた皿を置きます。準備ができたなら雄鶏を少し離れた場所に置いて、最初に雄鶏が来た人が一番早く結婚できるといわれています。

ミッドナイト・キス

元旦を迎えると多くの国の人はキスをします。イギリスやイタリア、アメリカなどの国の風習で、いろいろな意味や言い伝えがあります。例えば、ヨーロッパ

オージー・スラング・タイム

オーストラリアのスラングを学ぼう

"Booze Bus"



読み方 「ブーズ・バス」

意味 「飲酒運転取り締まり用の警察車両」

「Booze」は「お酒」のスラングで、「Bus」を付けて、飲酒運転の取り締まりを行っている車を意味しています。オーストラリアの年越しには紅白歌合戦や除夜の鐘がないので、家族や友達の家でパーティーをしたり、街中のクラブやイベントに行ったりして、お酒を飲みながら賑やかに新年を迎えることが多いです。大晦日と元旦には市民の安全を確保するためにたくさんの Booze Bus が配置されるので警察官は大忙しです。おまわりさんありがとうございます！

の一部ではキスをすれば恋人との愛情の絆がもっと深まり、キスをしないと愛を失うといわれています。ニューヨークのタイムズ・スクエアとヴェネツィアのサン・マルコ広場ではたくさんの人が集まって午前0時になるとみんな同時にキスをします。

オーストラリアの花火

オーストラリアでは、多くの人々が年越しに花火を見に行きます。私が住んでいたブリスベンでも花火はありますが、最も有名なのはシドニーの花火です。毎年テーマが設定されていて、最近では「Wonder(驚異)」や「City of Colour(色彩都市)」などがありました。

インターネットで調べるとたくさんお正月の風習を見つけることができます。皆さんが一番おもしろいと思ったのはどこの国ですか。



▲シドニーの花火。この年のテーマは「ダイヤモンド・ナイト」